

たかおさん
「誰のフィールドサイン？」の巻

「のぶすま」最新号とバックナンバーを高尾山山頂にある、高尾ビジターセンターにて配布しております。
希望の方はビジターセンター窓口までお越し下さい。

雪に残された足跡を探しながら山内を歩く高尾ビジターセンタースタッフ一行。

タスキかな? ぽいですね。

幅広で、肉球が五つあるのて、分かりやすいですね。

A. アナグマのフィールドサイン

ん?これは何の足跡? 指が長く、指が太いですね。

A. ????

あ…。 (雪玉を作った)

A. スタッフのフィールドサインでした。

作・絵：こばやし

Twitterでふりかえる高尾山ニュース!

高尾ビジターセンターのTwitter・Facebookをチェックしていただいているみなさま、いつもご覧いただきありがとうございます！
山頂の気温や天気、旬な自然情報などを毎日発信しています。
昨年10月～12月の間のツイートから、注目のニュースをご紹介します。



11月は1年を通して最も高尾山が混雑する季節です。みなさんのお目当ては山内を美しく彩るこの紅葉!!
清滝駅前に現れるケーブルカー待ちの長蛇の列は、秋の高尾山の風物詩とも言えますね。

解説員 くらむ

vol.32

目指せ高尾山での迷子0!

突然ですが、私は人の多い場所にてかけると一緒にいった人達とはぐれることが多々あります。興味を持ったものの方についていふらふらと行ってしまふからです。そしてよくあるパターンですが、はぐれたことに気付いた後も連れを探しながら直感で道を選び、どんどん進んでいってしまうのです。今は携帯電話を利用してスムーズに合流できるようなりました。が、幼少期は親にとってはやっかいなタイプだったと思います。

高尾山では紅葉シーズン等の混雑期に迷子が多く発生します。道迷いではなく、人に紛れてはぐれてしまう迷子です。混雑期の山頂は通勤時の満員電車に近い混み具合です。高尾山は様々な山道があるので、つい「ふらふらと歩いてしまふ」と、どの道に行ってしまうか予想がつかえません。山頂のトイレ付近で迷子になった子が稲荷山コースに入ってしまったたり、6号路で迷子になった子が麓で発見されたり…。日没後は真っ暗になってしまったため、日暮れまでに発見できないと判断された場合は警察に捜索要請を出す場合もあります。

そんな迷子が発生した時に役立つアイテムが「迷子札」です。スタッフがすぐ同行者に連絡出来るからです。今は個人情報が見えないように工夫されているものがあります。もしもこの時に本当に役立つので、是非利用していただけたらと思います。大人同士がはぐれてしまふ事もあるので、グループでの登山は一人ずつに進んでしまわないように、みんなで一緒に登るのが良いですね。

〈解説員 やまもと〉

高尾山山頂から発信!

のぶすま

「のぶすま」とはムササビの古い呼び名です。



vol.70 季刊
2023年冬号

冬の高尾山で感じる“動物の気配”

野生動物にとって冬は耐える季節です。1年を通して最も食べ物が少なく、飢えにより命を落とすことさえあります。山内で動物の食べ痕を見つけると「昨晚はこの場所でご飯を食べていたんだらうな〜!」と、普段見ることが難しい野生動物の気配を楽しめるのと同時に、冬でも様々な食べ物がある事に驚かされます。フィールドサインは、動物たちがたくましく生きる様子を物語り、動物たちを飢えさせない高尾山の豊かさを教えてくれたのです。
気軽に楽しめるフィールドサイン探しをこの冬、高尾山で始めてみませんか?

冬のフィールドサインクイズ

Q. 誰が残した痕跡だろう?

①



②

アオキの実に残るなぞの痕…?



③

冬芽が無くなっているよ!



④

糸を引いた誰かのフン…?



⑤



⑥

⑤と⑥は動物の足跡!



答えは裏側へ

「フィールドサイン」とは?

野外で見つかる、動物が残した痕跡のことで、食べ痕、足跡、フンなどを指します。警戒心の強い野生動物を日中に観察することは難しいですが、フィールドサインを見つけると、どの動物がどこにいたか、何を食べていたかなどを推測することが出来るのです!



牧野富太郎と高尾山

2023年度前期からはじまる連続テレビ小説『らんまん』のモデルとなる牧野富太郎（以下、牧野）。牧野は日本の植物学の父とも呼ばれ、数々の功績を残してきた人物ですが、実は高尾山の植物相の解明にもその名を刻んでいるのです。

牧野は裕福な家庭に生まれ、小さい頃から十分な教養を身につけることができたため、小学校は早々にやめてしまったといえます。そこから牧野の日本の植物学のために生きていくことも過言ではない人生がはじまります。牧野は小さい頃から、家の近くの山に入っては植物を観察・採集を繰り返す日々を送っていました。しかもこの時代、日本で植物の研究は盛んでなかったため、ほぼ独学で進めていきました。その方法はいたってシンプルで、教科書となる植物図鑑と見つけた植物を照らし合わせていたそうです。

牧野は沖縄を除いた全国で植物採集を行っており、その数なんと500地点以上。その調査地のひとつが高尾山です。牧野は1886年から1933年までに44回も高尾山を訪れました。また、牧野は1893年から1939年まで東京帝国大学（現、東京大学）の教員をしており、学生や東京植物同好会（現、牧野植物同好会）の方などと登ることが多かったようです。このことから当時高尾山が学習の場であり、レクリエーション機能を持っていたことがうかがえます。現在でさえ、何回登ってもいつも違う発見がある高尾山。牧野自身も行くたびに新しい発見があり、楽しんでいただけないかと思えます。牧野が高尾山で新しく発見した植物も多く、レモンの香りがするレモンエゴマやシロバナオオバジャ

ノヒゲ、イナモリソウと比べて花の形が変わったホシザキイナモリソウなど10種類以上の植物を発見しました。それぞれ自然研究路やその他の登山道沿いで見ることが出来ます。（詳しくは、のぶすま2020年夏60号をご参照ください。）

約1500種類の植物や約5000種類の昆虫が生息するともいわれる高尾山は研究者を惹きつけました。研究者たちが足繁く通い研究をした結果、たくさんの新種が見いだされたため、その植物相の豊かさを誇れるようになったのではないかと考えます。日本の歴史に残る植物学者の牧野も度々訪れた高尾山。当時から気軽に花を楽しめる山であったことが窺えます。現在も個人や団体が花を楽しむ聖地となっています。そんな高尾山に花の観察に訪れてみてはいかがでしょうか。

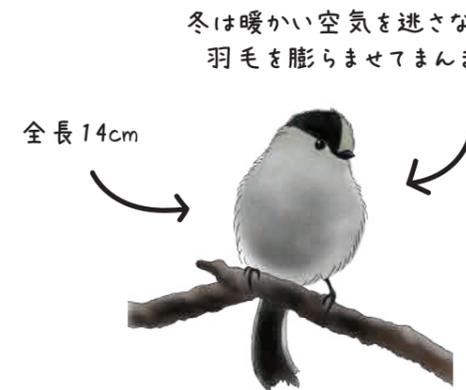
最後に、牧野と高尾山を関連付ける資料はとも少なく、関連施設の方々にご指導ご鞭撻を賜りました。練馬区立牧野記念庭園学芸員田中氏には、ご助言をいただきました。厚く御礼申し上げます。東京大学総合研究博物館池田氏には、資料を提供いただきました。厚く御礼申し上げます。



レモンエゴマ

見られる時期・通年
見られる場所・山内どこでも
(人の少ない朝や夕方オススメ)
〈解説員 かわまた〉

梢をちょよこまか飛び回り、葉の裏にいる小さな虫や木の実などを探しています。時には枝先にぶら下がってアクロバティックな動きを見せることも！
冬はカラ類の小鳥と群れをつくり、先陣を切って移動します。エナガの声が聞こえたら、他の小鳥にも出会えるチャンスです。



全長14cm

「ジュリリリ…」 「チュルルル…」と鳴く

エナガ
冬はモフモフ度5割増し！



vol.28

解説員の

① テンの糞



そこで止まりな…

レア度 ★☆☆☆☆
場所: 道脇や段など、目立つ場所

観察ポイント!
冬の間は動物食の割合が増えるため、ネズミなどの体毛が混じることが多いです。

② ヒヨドリが実をついばんだ痕



ヒヨドリの口には大きくて、よく落とすしちゃうんです…

レア度 ★☆☆☆☆
場所: 1号路や5号路など、アオキのある登山道

くちばしの痕が残るアオキの実には赤く熟し、地面に落ちていることが多いです。

③ ムササビが冬芽を食べた痕



食を詠む
ムササビが
好んで食べる
コナラの芽
小さいけれど
お気に入りです
ムササビ

レア度 ★☆☆☆☆
場所: 2階建トイレ出口横の広場

器用に芽の部分だけかじり取られ、枝の切り口は斜めに切られています。コナラの冬芽を食べていることが多いです。

④ レンジャク類のフン

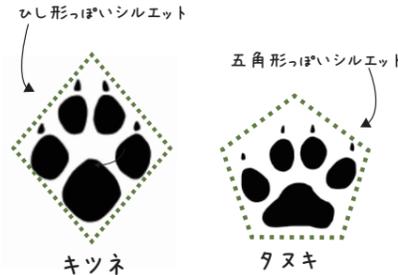


ヤドリギの実が好き!

レア度 ★★★★★
場所: 浄心門付近のケヤキ下

ヤドリギの実をフンとして出された時、木に引っかかるように糸を引くのが特徴です。

⑤ キツネの足跡



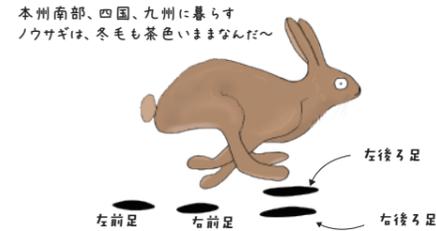
キツネ

タヌキ

レア度 ★★★★★
場所: 薬王院境内周辺、大杉並木沿い

肩幅の狭いキツネの足跡は、モデル歩きのように一直線上に続きます。ひし形のシルエットも特徴です。

⑥ ノウサギの足跡



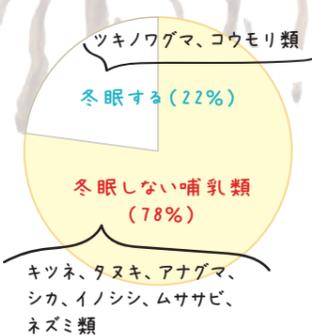
本州南部、四国、九州に暮らす
ノウサギは、冬毛も茶色いままなんだ～

レア度 ★★★★★
場所: 雪が積もった場所で見られるかも…?

後足が前に着地し、前足は後ろで縦に並んだ跡が残るので、他の動物にはあまり見られない不思議な足跡になります。

意外? 冬も活動する動物たち。

両生類や爬虫類、一部の哺乳類は冬眠することで生きるために必要なエネルギーを節約しますが、多くの動物は寒い真冬の間も活動しています。高尾山に生息する哺乳類32種類のうち、25種類は冬眠せずに、寒い冬にも人知れず活動しています。



【ネズミ類の貯食】

冬に備えて木の実を集めて保存しておくことで、森の食べ物が少なくなる季節も食べ物に困りません。巣穴の近くにはたくさんの木の木の殻が捨てられています。



【冬場も活動するアナグマ】

秋に蓄えた脂肪が体温を保つエネルギーや断熱材となり寒さから身を守ります。山頂周辺で地面にお椀状の跡があれば、アナグマが地面の下の餌を探していた跡かもしれません。

フィールドサインを探すなら冬がおすすめ!!

冬は草木が枯れるので、山内の見通しが良くなり、フィールドサインを探しやすくなる季節です。特に雪が積もれば大チャンスで、フィールドサインが目立つだけでなく、キツネやウサギなど目撃情報の少ない動物の足跡が残ることもあります。こういった痕跡は貴重な記録になるので、みなさまからの情報をお待ちしています。(その際は写真もお忘れなく!)

〈解説員 おかだ〉